

(市長記者会見資料)

平成 17 年 7 月 6 日
京 都 市
(保健福祉局保健福祉部障害企画課
Tel : 251-2385)

「京都市自閉症・発達障害支援センター」(仮称)の開設について

本市では、平成7年7月、児童福祉センター内に自閉症発達外来を独自に設け、自閉症等の発達障害の早期発見・早期療育を実施してきましたが、療育希望者が増加の一途をたどり、待機者は500人を超える状況にあります。

そこで、自閉症を中心とした発達障害支援を強力に行うため、「療育」を中心に、「相談」、「就労支援」、「普及啓発・研修」の4つの機能を併せ持つ「京都市自閉症・発達障害支援センター」(仮称)を下記のとおり新たに開設し、総合的な支援を展開します。

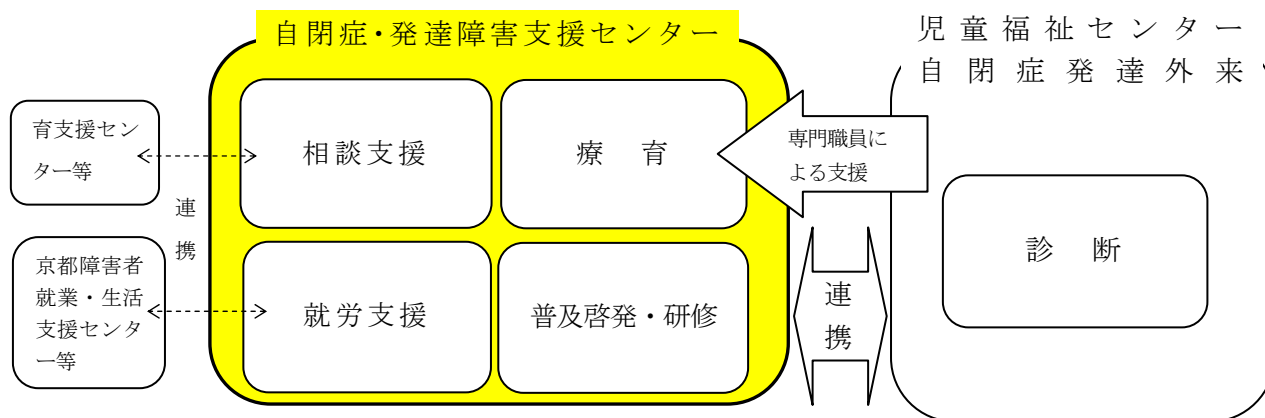
記

1 自閉症・発達障害の支援体制

支援体制を充実させるため、今後、自閉症発達外来では早期発見を目指した診断業務を行う一方、自閉症・発達障害支援センターでは、社会的適応能力の向上に欠かせない「療育」を中心に、4つの機能を総合的に展開する。

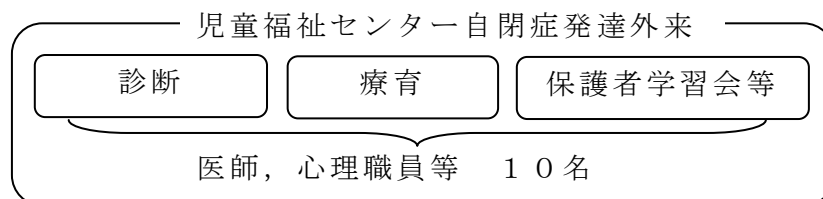
【イメージ図】

センター開設後



医師、心理職員等 17名(7名増)
(児童福祉センター及び(福)京都障害児福祉協会の職員で構成)

現行

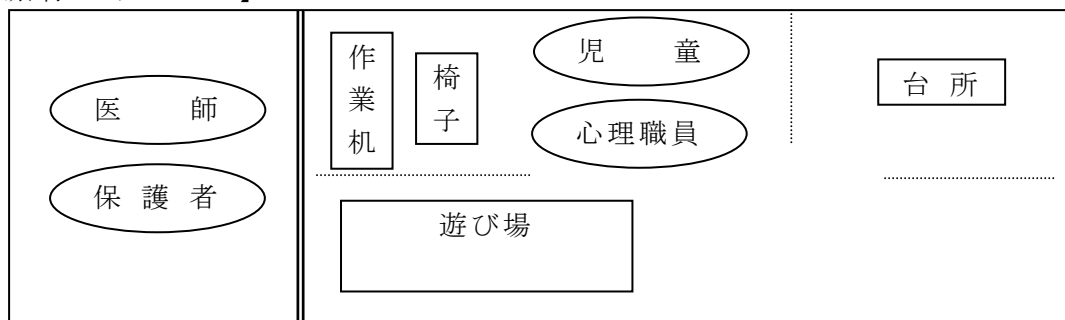


2 自閉症・発達障害支援センター

(1) 機能

- ア 療育＜自閉症児等に対する発達援助，生活援助及び保護者に対する指導・助言＞
- ・ 自閉症発達外来と連携しながら，自閉症児及びその家族に対する専門的療育を実施
 - ・ それぞれの子どもの特性を踏まえたきめ細やかな個別指導・助言
 - ・ 国基準（2人）の2.5倍に当たる5人以上の療育スタッフを配置することにより，年間の療育の実施件数を4倍増（約50件→約200件）とする。
 - ・ 療育室の設置（3室）

【療育室イメージ】



- ※ 1 児童と職員が作業や遊戯をする様子を，別室で保護者と職員が観察し，生活の具体的なアドバイスを行う。
- ※ 2 仕切り（二重線箇所）はマジックミラーとなっている。

イ 相談

- ・ 発達障害のある方や御家族の方からの相談に応じ，発達障害に関する基礎的な知識や行政施策等について障害の内容や程度に応じた適切な情報を提供
- ・ 育（はぐくみ）支援センター（参考3）等の関係機関と連携し，ニーズに応じた相談支援を提供

ウ 就労支援

- ・ 京都障害者就業・生活支援センター等の関係機関と連携し，就労に向けた相談や情報提供などを実施

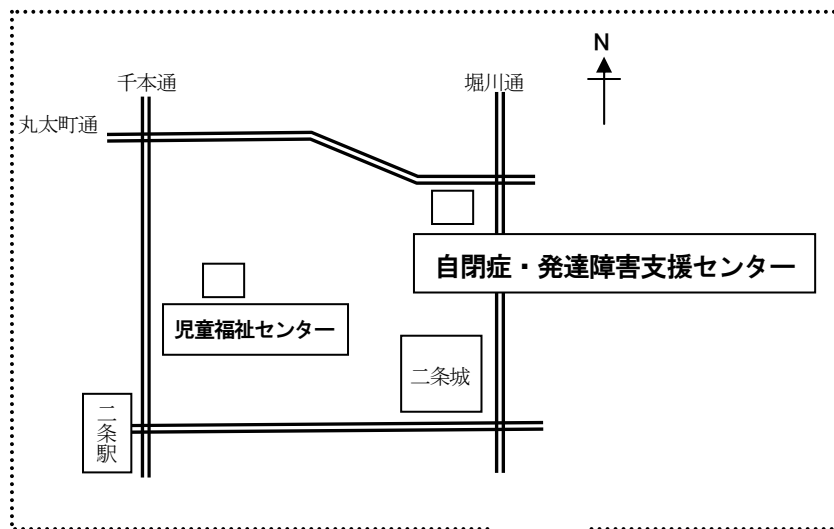
エ 普及啓発・研修

- ・ 発達障害の特性や対応方法を解説したわかりやすいパンフレットを作成・配布
- ・ 発達障害への対応や療育方法について，障害児施設や学校をはじめとする関係職員を対象に研修を実施

（２）設置場所及び施設

ア 設置場所

旧待賢小学校（上京区丸太町通黒門東入藁屋町）



イ 施設

校舎２階の５室を内装改修し、療育室（３室）、研修室、相談室、職員室を設置（延べ３３８．４㎡）。

ウ 開所日、時間

月曜～金曜、午前８時３０分～午後５時（予定）

（３）運営方法

ア 児童福祉センター自閉症発達外来と密接な連携を図り、従来の取組を更に充実させるため、児童福祉センターの専門職員を配置するとともに、障害児療育や「京都障害者就業・生活支援センター」（参考３）の運営に実績を有する（福）京都障害児福祉協会（参考３）に業務を委託する。

イ 医療、福祉、教育など幅広い分野の関係者やご家族の方々によって構成する「連絡協議会」（仮称）を設置し、待機中の方々への支援方法、関係機関との連携などについて様々な御意見をいただき、きめ細やかな運営を行っていく。

（４）今後のスケジュール

- | | |
|-----|------------------|
| ８月 | ８／１からセンターの愛称を募集 |
| ９月 | 「連絡協議会」（仮称）の立ち上げ |
| １１月 | センター開設 |

（参考１） 発達障害

脳機能の障害のうち、その症状が通常低年齢で発現するものを言う。

３歳位までに生じ、他者との関係づくり、コミュニケーション、こだわりといった領域で障害がみられる「自閉症」、不注意や集中困難などにより社会的活動や学業に支障をきたす「注意欠陥／多動性障害」（ＡＤ／ＨＤ）、字の読み書きや計算などの学習に困難がある「学習障害」（ＬＤ）の大きく３つに分けられる。

発達障害は、障害そのものを取り除くことは困難な場合が多いが、早期に発見し、適切な療育や教育を行うことにより、社会的適応能力が高まることが期待できるとされている。

（参考２）京都市内の自閉症及び発達障害の児童数

自閉症の発現率は０．６％（Ｈ１６．４ 国や有識者による発達障害支援に関する勉強会資料から）と言われており、市内の年間出生者数（約１２，０００人）から試算すると、少なくとも年間７０人となる。

学習障害（ＬＤ）、注意欠陥／多動性障害（ＡＤ／ＨＤ）を加えると５％程度（同）ないしそれ以上と推定されており、同じく市内の年間出生者数から試算すると、年間６００人となる。

（参考３）関係機関

○（社会福祉法人）京都障害児福祉協会（北区紫野）

京都障害者就業・生活支援センターやデイサービス施設など、１０箇所以上の障害者施設を運営している。

○ 京都障害者就業・生活支援センター（北区鷹峰）

障害のある方への就労相談、障害者雇用に関する企業へのアドバイスなどを実施している。

○ 育（はぐくみ）支援センター

市内７総合養護学校（北・東・西・呉竹・白河・鳴滝・桃陽）に設置。

ＬＤ，ＡＤ／ＨＤ，高機能自閉症等の子どもたちも加え、地域の障害のある児童生徒・保護者・小中学校・高等学校・幼稚園等を対象に、一人一人に応じた教育について相談と支援を行っている。